平成3年10月28日

池袋の『夢のかけ橋』　東西デッキ広場の実現に向けて

シンポジウム開催

２８日午後２時から、東京芸術劇場小ホール１(西池袋１－８)において、約４００人の区民や関係者らを集め、副都心池袋の悲願である『東西連絡デッキ』をテーマとしたシンポジウムが開催された。東京商工会議所豊島支部が主催、豊島区および豊島区町会連合会、豊島区商店街連合会後援。

まず、主催者である東京商工会議所豊島支部・渡邊　輝会長が、「池袋は新宿・渋谷とともに、国際都市東京の副都心として高度な都市機能を果たしています。しかし、新宿・渋谷の両副都心に比べ、都市基盤や、いわゆる街の魅力づくりの面で立ち遅れていると言われています。これは、鉄道線路により街が東西に分断されているという構造上の制約を抱えているため、東地区のサンシャインシティやアムラックスビル、西地区の立教大学や東京芸術劇場など街づくり資源を充分に活用できないことによります。本日のシンポジウムを契機として、区民の皆さまに池袋の新しい街づくりについて関心をもっていただき、身近な問題としてお考えいただければ幸いです」と挨拶。

続いて、東西連絡デッキ整備計画案の調査・検討を担当した東京大学名誉教授・日笠端(ひがさ　ただし)氏による約３０分間の基調講演をはさみ、パネルディスカッションに入った。司会は、日笠教授とともに計画案の調査・検討を担当した早稲田大学理工学部教授・尾島俊雄(おじま　としお)氏。パネラーは、同じく調査・検討を担当した筑波大学社会工学系助教授・日端康雄(ひばた　やすお)氏をはじめ、東京都都市美懇談会委員でもあるイラストレーターの真鍋博(まなべ　ひろし)氏、豊島区在住のジャズ歌手・アンリ菅野(すがの)氏、および、池袋東西の商店街の代表各１名の計５名が務めた。

ディスカッションでは、５人のパネラーがそれぞれの分野から、池袋の『夢のかけ橋』である東西連絡デッキについての意見交換を行ない、２１世紀に向けた池袋の可能性と未来像を模索した。

問合せ　都市整備部 開発担当課